

## 平成21年度事務事業評価シート (20年度実施事業分)

事業番号		10 02 07	中期総合計画主要施策番号		1-01,2-04		担当課	部・課	林務部信州の木振興課	
事業名		木の香る環境づくり総合推進事業				内線		3275		
						E-mail		ringyo@pref.nagano.jp		
事業の概要等	事業の目的	市町村等の公共施設及び教育施設等の木造木質化に対して補助することや県立特別支援学校向けに木製机・いすを導入することにより、木造施設等への関心を高めて県産材の利用を促進する。								
	事業の必要性	[現状(事業の目的との間にどのようなギャップがあるか)]								
		公共施設の建設にあたり、公共予算の制限等を理由に安価な資材を利用する傾向があり、木造を選択する事例が少ない。								
		[原因分析(ギャップが発生している原因は何か)]								
	事業内容	市町村等が公共施設を木造とするためにはコスト面での大きな負担がある。								
[課題の特定(事業の実施により解決しようとする課題は何か)]										
実施期間	公共施設等の木造木質化に対して補助することにより、県産材の利用拡大を図るとともに未来を担う子ども達的情操教育の一端を担う。									
	・公共施設の木造木質化に補助(木造公共施設整備事業:[国]1/2以内) ・特別支援学校向けに木製机・いすの導入(木の香る環境づくり推進事業)									
事業の概要等		H14 ~	根拠法令等	木材関係事業補助金交付要綱(県)、木造公共施設整備事業実施要領(県)						
成果と達成状況	事業の目指す成果		達成度(期待どおり)の判定基準(H20)			達成状況			評価	
	市町村等が実施する木造公共施設等の整備に対して補助することにより、木造木質化への関心を高め県産材の利用を促進する。		木造木質化や木製机・いすの導入が進み、県産材の利用が促進されること。			以下のとおり県産材の利用が促進された。 木造公共施設整備事業 4施設 特別支援学校への木製机・いす 9校 124セット			a.期待以上 b.期待どおり c.やや下回る d.期待以下	
事業コスト	区 分		単位	19年度	20年度	21年度(当初)	20年度の概要			
	最終予算額 (A)		千円	167,215	446,635	144,580	国庫・県単	国庫・県単		
	決 算 額 (B)		千円	98,480	103,735		実施方法	直接・補助		
	B(H21はA)のうち一般財源		千円	25,980	3,950	3,680	歳出節別内訳等	補助金:49,462 需用費:4,067		
	概 算 人件費	従事する職員数	人	1.00	1.00	1.00	(単位:千円)	(H21への繰越額:391,591)		
	概算人件費 (C)		千円	7,140	7,149	7,149				
概算事業費 (B(H21はA)+C)		千円	105,620	110,884	151,729					
事業実績	内 容		単位	19年度	20年度	21年度(予定)	左記以外の20年度の実績			
	木質・木造化施設数		施設	12	15	4	平成20年度2月補正予算(繰越)により、木質・木造化施設11施設を追加実施した。(20年度の予算措置済み施設15施設)			
	木製机・いすの導入		セット	1,403	124	89				
	導入した学校数		施設	22	9	18				
事業の課題	区 分		判 定 ・ 説 明							
	事業のニーズの変化		増加	横ばい	減少	判定の説明	・地域においてシンボリックな木造公共施設の整備が進んできたため、各地域から地域交流施設の木造化や学校関連施設の内装木質化等に対する要望が増加している。 ・公共施設等の木造・木質化に対して助成することは、県産材利用拡大につながることから、森林整備を支える林業の再生や地球温暖化防止等の観点からも全県的な取組が必要である。			
	県の関与を見直す余地		余地なし	当面余地なし	余地あり					
	有効性を高める余地		余地なし	当面余地なし	余地あり					
	効率性を高める余地		余地なし	当面余地なし	余地あり					
課題の総括		引き続き、県産材を利用した公共施設の木造・木質化の支援や県民への普及啓発などにより県産材の利用拡大を図っていく。								